

2018年 定時社員総会 議事録

開催日時：平成30年6月1日（金） 14時～16時

会 場：食糧会館（全米販） 5階 B会議室 中央区日本橋小伝馬町15-15

TEL 03-4334-2155

東京都中野区弥生町一丁目17番3号

一般社団法人 日本飼料用米振興協会

理事長 海老澤 恵子



一般社団法人 日本飼料用米振興協会

2018年 定時社員総会 議事録

開催日時 平成30年6月1日(金) 14時～16時
会議場 食糧会館(全米販) 5階 会議室 中央区日本橋小伝馬町15-15
TEL 03-4334-2155

議決権のある社員総数 23個

出席正社員(木徳神糧株式会社)
出席正社員(生活クラブ事業連合生活協同組合連合会)
出席正社員(ヤンマーアグリジャパン株式会社)
出席正社員(全国農業協同組合連合会)
出席正社員(昭和産業株式会社)
出席正社員(NPO未来舎)
出席正社員(中野区消団連)
出席正社員(羽賀育子)
出席正社員(海老澤恵子)
出席正社員(信岡誠治)
出席正社員(岩野千草)
出席正社員(谷井勇二)
出席正社員(若狭良治)
議決権行使書(シンジェンタジャパン株式会社)
議決権行使書(株式会社秋川牧園)

正社員(中国工業株式会社)
正社員(木村洋文:個人) 注:木村牧場
正社員(個人) 注:滋賀県飼料用米協議会
正社員(谷 清司 個人)
正社員(菊地 実 個人)
正社員(吉瀬雅彦 個人)
正社員(谷口信和 個人)
正社員(石澤直士 個人)

出席社員の議決権の数 15個

オブザーバー(傍聴) 1名(賛助会員 太陽工業株式会社) 注:西村 哲

【議 事】

1. 開会挨拶と資格審査報告

理事・事務局長 若狭良治は、2017年度 正社員数23中、本人出席(13)・議決権行使書(2)で2018年6月1日開会時現在、定足数満たしていることを報告した。

2. 議長選出

定款第13条～16条の定めにより、代表理事 海老澤恵子が議長に就いた。

議長は、出席を確認し、本定時総会が適法に成立したことで開会を宣言し、直ちに議事に入った。

3. 議長挨拶

私たちの振興協会は、設立後5年目となりました。昨年度の事業として、農林水産省と共同開催で第2回目となる「飼料用米収量日本一表彰事業」を実施しました。また、一般社団法人日本養豚協会の申し入れにより第1回目となる「飼料用米活用畜産物ブランド日本一表彰事業」を実施しました。

また、設立一年目より、「超多収穫米普及連絡会」以来の伝統を受け継ぎ、通算8～11回目となる「飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流会～飼料用米普及のためのシンポジウム～」を引き続き開催してまいりました。

今年は「飼料用米多収日本一・畜産物ブランド日本一表彰式、飼料用米普及のためのシンポジウム2018」としてさらに発展をしてまいりました。

来年3月15日に、通算12回目として「飼料用米多収日本一表彰式・畜産物ブランド日本一、飼料用米普及のためのシンポジウム2019」を東京大学・弥生講堂で開催することで会場の確保を行いました。

飼料用米については、様々な状況の下で進んでおりますが、TPP11やそれに発生する「主要農作物種子法廃止法」の様々な影響が今後出てくる状況が予測されています。

食糧安全保障の面や食の安全や食料自給率の向上などの面で、今後の問題を注視していくことが重要となります。

皆様と多くの課題について検討を加え、進んでいきたいと思っております。

これから皆様で審議決定していただく活動方針を高く掲げて、共に飼料用米の普及と食糧自給率の向上を目指してまいりたいと思っております。本日はよろしくようお願い申し上げます。

第II議案 2017年度活動報告（2017年4月1日～2018年3月末）

1. 表彰事業

「飼料用米多収日本一表彰事業」を平成28年度（2016年度）について平成29年度（2017年度）事業として農林水産省政策統括官付穀物課と共同で開催しました。

事業を推進するにあたり、全国農業協同組合中央会（全中）、全国農業協同組合連合会（全農）、協同組合日本飼料工業会に金銭面で多大なる後援をいただいております。表彰事業の運営費用にしております。日本振興協会では特別会計として処理をしています。

また、日本農業新聞からは表彰状、褒賞（副賞盾）でご協力をいただいております。

平成28年度より始まった農林水産省の助成事業「飼料用米活用畜産物ブランド事業」の日本一を表彰するコンクールが平成29年度より開始され、事業実施団体である一般社団法人日本養豚協会（会長 志澤勝（有）ブライトピック／神奈川県）より、当協会のシンポジウムでの実施開催協力の要請に基づき、海老澤会長と若狭事務局長が渋谷区代々木の本部を訪問し意見交換を行いました。

平成29年度事業の表彰式として、多収日本一事業表彰式と合同で行いました。

2. 調査研究事業

「飼料用多収穫米の栽培に関する研究」を前年度に引き続き、全国農業協同組合連合会、東京農業大学農学部畜産学科畜産マネジメント研究室、日本飼料用米振興協会の三者で行いました。

オオナリ、関東飼271号を栽培しました。

「飼料用米普及のためのシンポジウム2018」で信岡誠治教授が2004年～2017年の14年間の飼料用米の研究成果である「飼料用米の低コスト生産の展望について」と題して報告しましたが、その中の2016年、2017年の取り組みとして報告をいただきました。

本事業は東京農業大学畜産学科の廃止に伴い2018年度は実施しません。

3. 産地調査視察（木村牧場（巨大ビニールハウス）、JA加美よつば農協 視察）

2017年9月21日～22日の日程で、理事会メンバーを中心に、産地視察を実施しました。

訪問先は、青森県の株式会社木村牧場と宮城県のJA加美よつば農協です。

木村牧場は東京農業大学の信岡教授が指導をしてきました飼料用米の粳米を超微粉碎粉にして給与する方法を採用していますが、原料となる飼料用米を農家から直接買い入れ、巨大ビニールハウスを建設し、バラ保管をしている様子を詳細に視察しました。

JA加美よつば農協のカントリーエレベーターの建設から現在の利用方法について詳細に説明を受けました。騒音問題などで住宅地近隣での建設が難しかったことなど重要な指摘がありました。

4. 意見交換会

「コメ政策の今後の方向についての意見交換会」を2017年11月15日、食糧会館、参加者80名で開催しました。

主食用のコメについても、食味の向上が全国的に取り組み、多くの銘柄米が生まれてきましたが、コストは上昇し、世界的な穀物の需給状況に対応したコスト競争に対応できるようにすることも求められています。一方、一人当たりの食用米の消費高は減少を続けており、年間8万トン減少が続いています。

私たちは、日本の国土に適した水田耕作を活かし、主食用米、飼料用米を問わず「多収量米」の普及を目指してきました。今後の食糧の自給率の向上を目指すうえでも、国産米の今後の動向はたいへん関心の高いところです。このような機会に、コメに対する関心を高め、今後の方向性を模索するための意見交換をしたいと考え、この意見交換会を昨年に引き続き開催しました。

◆ 主催：一般社団法人 日本飼料用米振興協会（J-FRA）

◆ 開催日時・会場：2017年11月15日（水） 13:30～16:45 食糧会館会議室

◆ 問題意識：平成30年産（2018年）から、日本のコメ政策は大きくカジを切り、国による米生産数量目標の「配分」はなくなり、全国の需要量の見通しを示す「情報提供」に変わります。

また、10aあたり7,500円の米の直接支払交付金は廃止となります。

① 基調報告、基調講演など

開会挨拶 J-FRA・海老澤恵子理事長欠席のため 若狭良治 理事・事務局長

基調講演 「農政の課題について」 農水省政策統括官穀物課・小口悠課長補佐

基調講演 「7,000t入る巨大ビニールハウス」

（榎木村牧場・木村洋文 代表取締役社長（青森県・養豚事業者）

意見発表～意見交換会：進行役は東京農業大学・信岡誠治 教授（J-FRA理事）

② 意見発表を以下の方々にご相談し、アドバイスをいただきました。

コメ卸団体（全国米穀販売共済協同組合：全米販 加瀬 栄 業務部長

飼料業界 昭和産業株式会社飼料畜産部：多田井 友揮 担当

物流資材 太陽工業㈱ 物流システムカンパニー 西村 哲 マーケット部長

の皆様にご話題提供をしていただきました。

話題提供者から各自5分程度でそれぞれの課題を提起していただき、その後参加者全員でのディスカッションを行いました。

③ 課題まとめ～閉会挨拶：加藤好一（副理事長：生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長）

5. シンポジウム2018、資料展示、試食会の開催

会場の東京大学弥生講堂の確保では農学部鈴木宜弘教授のご尽力いただきました。感謝申し上げます。2018年3月9日に東京大学弥生講堂（一条ホール・ロビー・会議室）で通算11回目となる「飼料用米普及のためのシンポジウム2018、資料展示、試食会」を開催しました。参加者280名で盛会でした。

●後援窓口の変更

農林水産省政策統括官付穀物課を窓口にして農林水産省の後援を受けた。

任意団体の「超多収穫米普及連絡会」時代から生産局畜産部畜産振興課や飼料課を通じて農林水産省の取り組み政策についての報告をいただき、法人化を実現した2014年4月以降のシンポジウムの農林水産省の後援窓口をしていただけてきましたが、今年3月9日の「シンポジウム2018」から農林水産省の意向により穀物課に窓口を変更しました。

●シンポジウム2018の実施

主催者挨拶 一般社団法人 日本飼料用米振興協会 理事長 海老澤 恵子

連帯の挨拶 日本生活協同組合連合会 専務理事 和田 寿昭

挨拶 農林水産省生産局畜産部飼料課流通飼料対策室 室長 三上 卓矢

基調講演 「水田フル活用と飼料用米の定着に向けて」

農林水産省政策統括官穀物課課長 堺田 輝也

特別報告 飼料用米の低コスト生産の展望について

東京農業大学畜産マネジメント研究室 教授 信岡 誠治

活動報告1 養豚経営における飼料用米活用（集荷から給与までの流通改革）

株式会社木村牧場 代表取締役社長 木村洋文

活動報告2 「お米育ち豚プロジェクト」利用を広げる取り組みについて

コープデリ生活協同組合連合会 CSR 推進室 室長 岩佐 透

活動報告3 飼料用米を活用した耕畜連繫と銘柄卵の確立

農事組合法人会田共同養鶏組合 組合長理事 上村博文

閉会挨拶 一般社団法人 日本飼料用米振興協会 副理事長 加藤 好一

(生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長)

開催した試食会、資料展示会も弥生講堂のロビーや会議室で開始して充実したものとなった。

●資料展示のご紹介 (ロビー展示)

東京農業大学農学部畜産マネジメント研究室 (飼料用米の低コスト生産など)

農事組合法人会田共同養鶏組合 (温泉たまご)

太陽工業株式会社 (飼料用米の屋外・常温保管ユニット)

昭和産業株式会社 (オール国産配合飼料使用鶏卵：和のしずく)

株式会社木村牧場 (粉碎粳米飼料用米給与の養豚事業と巨大ビニールハウス粳米の保管)

中国工業株式会社 (飼料用米粉砕添加装置マイスター)

雪印種苗株式会社 (いね WCS 粳米用乳酸菌)

東都生活協同組合 (資料配布)

●試食のご紹介 (ロビー展示)

農事組合法人会田共同養鶏組合 (温泉たまご)

昭和産業株式会社 (オール国産配合飼料使用鶏卵：和のしずく)

株式会社木村牧場 (粉碎粳米飼料用米給与のつがる豚)

6. 会員動向

事業体正社員

新たにヤンマーアグリジャパン株式会社が加入しました。

事業組織としては、

木徳神糧株式会社、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、中国工業株式会社、株式会社秋川牧園、シンジェンタ・ジャパン株式会社、全国農業協同組合連合会、昭和産業株式会社

と合せて8事業体となり、事業運営に資金的に厚みが増した。引き続き、新会員の拡大に努める。

非営利事業体正社員、個人正社員

中野区消費者団体連絡会、NPO未来舎、木村牧場、東京農業大学畜産学部、(個人会員省略)

事業体賛助会員、非営利団体賛助会員

日本生活協同組合連合会、生活協同組合おかやまコープ、庄内みどり農業協同組合、株式会社平田牧場、栃木開拓農業協同組合、滋賀県飼料米利活用推進協議会、太陽工業株式会社、加美よつば農協

J Aくみあい飼料株式会社、株式会社ゼンケイ

ホームページの内容については、農林水産省との共同事業の掲載などで、閲覧者が12,600件となり、1年間で倍増しました。今後、更にわかりやすい掲載スタイルで一層の閲覧者の拡大を図りたい。

以上について、議長は審議を進め、意見を募ったが特に意見はなく、審議を終了し、採決を行った。全員の賛成で議了した。

第II議案 2017年度決算報告承認の件(2017年4月1日~2018年3月末)

(1) 日本飼料用米振興協会 本体事業 決算(案)

2017年度 活動計算書(決算/予算対比)

2017年 4月 1日から2018年 3月31日まで

一般社団法人日本飼料用米振興協会

単位:円

科 目	金 額	
	2017年度予算	2017年度実績
I 経常収益		
1 会費収入	1,180,000	1,040,000
2 入会金収入	100,000	50,000
3 協賛金	200,000	300,000
4 研究委託費	240,000	241,920
5 振替金	300,000	300,000
6 雑収入	0	222,865
7 受取利息	0	4
経常収益計	2,020,000	2,154,789
II 経常費用		
旅費交通費	150,000	161,842
通信費	60,000	31,080
会議費(シンポ会場等)	100,000	236,220
資料購入費	40,000	33,732
資料作成費	220,000	248,650
事務用品費	120,000	450,025
講師謝礼	200,000	84,210
租税公課	120,000	70,000
外注費	300,000	458,664
支払報酬(会計事務所)	80,432	80,000
事務費	756	4,158
飼料用米栽培研究費	0	120,960
広告宣伝費	0	64,800
予備費	30,000	0
経常費用計	1,421,188	2,044,341
当期経常増減額	598,812	110,448
III 経常外収益	0	
経常外収益計		0
IV 経常外費用		
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		110,448
当期法人税、住民税及び事業税		0
当期正味財産増減額		110,448
前期繰越正味財産額		20,193
次期繰越正味財産額		130,641

(2) 特別会計 飼料用米多収日本一表彰事業

2018年度 活動計算書(予算)
2018年 4月 1日から2019年 3月31日まで

一般社団法人日本飼料用米振興協会

(1)収入の部

科 目	2017年度実績		2018年度計画	
	計画	実績	計画	実績
I 経常収益				
繰越金(預金)	1,116,770	1,116,670	1,648,030	
特別会計協賛金	2,800,000	2,800,000	2,800,000	
経常収益計	3,916,770	3,916,770	1,822,030	

(2)支出の部

科目	2017年度実績		2018年度計画	
	計画	実績	計画	実績
資料費	20,000	20,044	25,000	
会議費	93,000	116,428	120,000	
広報費用	500,000	216,540	250,000	
ホームページ管理費	100,000	100,000	100,000	
旅費	1,201,350	944,678	1,200,000	
表彰式経費	918,000	842,194	900,000	
通信費	10,000	20,000	20,000	
諸掛	10,000	8,000	10,000	
調査費	0	0		
予備費	0	0		
支払い消費税	0	0		
残高証明書(銀行)	0	756	1,000	
合 計	2,324,000	2,268,640	2,626,000	

繰越金	1,116,670	1,116,670	1,648,030	
今年度収入	2,800,000	2,800,000	2,800,000	
総支出	2,324,000	2,268,640	2,626,000	
残 額	1,592,770	531,360	174,000	
今年度繰越金	1,592,770	1,648,030	1,822,030	

なお、表彰式に関しては、飼料用米多収日本一表彰事業特別勘定で使用全額を別途徴収した費用で補てんしました。飼料用米畜産物ブランド日本一表彰事業は、別途分担金を事務局である一般社団法人日本養豚協会に請求し本体会計として補填処理しました。

飼料用米多収日本一表彰事業の直接費用は、次の通りです。

事 項	実 績
表彰式、シンポジウムの資料配布負担分	20,044円
表彰式(花代 22,000円)	16,500円
会場使用料分担金	33,562円
広報費用 飼料用米多収日本一 ホームページ運営管理費	316,540円

審査員の審査委員会出席（10人うち行政1名）	116,428円
受賞者表彰式出席 11組	944,678円
賞状（筆耕料） 東京書技房	46,872円
副賞（楯）（12枚）	324,000円
表彰式胸バラ章	33,900円
金屏風 6曲一双	30,000円
平成29年度 飼料用米多収日本一表彰式 自立横看板	36,000円
会場設営、撤去	99,000円
運営費 カメラマン、作業員等を含む	129,000円
審査委員会、表彰式の開催案内郵送	20,000円
振込手数料等	8,000円
消費税	込み
支出合計	2,174,524円
収入合計（後援費用）後援費は、全中、全農、飼料工業会が供出	2,174,524円
過不足	0円

以上について、議長は審議を進め、意見を募ったが特に意見はなく、審議を終了し、採決を行った。
全員の賛成で議了した。

第Ⅲ議案 2018年度（平成30年度）活動計画（2018年4月1日～2019年3月末）

1. 表彰事業計画

第3回目となる「平成30年度 飼料用米多収日本一表彰事業」を開催します。
キックオフミーティングを行いました。

2018年（平成30年） 4月17日 15:00～16:00

農林水産省 217号会議室

出席

農林水産省 政策統括官穀物課 企画班 企画係長 足立 隆文、小池 リリ子

々 政策統括官米麦流通加工対策課 課長補佐 大石 満芳

々 消費流通第1班 米国消費流通第一係長 関口 尊雄

JA 全中 森田 謙三、

JA 全農 遠藤 雄士、

協同組合飼料工業会 久田 和弘

日本農業新聞 高川 麻緒、

飼料用米振興協会 海老澤 恵子、若狭 良治

2018年4月27日に農林水産省がニュースリリースで5月1日から6月29日の間、参加農家を公募することを広報しました。

同日、日本飼料用米振興協会のホームページに掲載しました。

2. 調査研究事業計画

これまでの全農、東京農業大学、日本飼料用米振興協会の三者による栽培試験委託実験事業は終了したことから、新たな研究事業の策定を開始する。

3. 産地調査視察事業計画

第2回目の産地視察として、九州（大分、福岡）、山口地方の飼料用米生産や集荷の状況、養鶏、鶏卵等の事業状況を視察する。視察時としては9月めど。

4. 意見交換会計画

今年は米作の根本が変更になり、飼料用米をめぐる状況も大きく変化することが予測されます。

今年は、6月～7月に穀物課との意見交換を行い、11月に第3回目となる「コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」を開催する。

5. シンポジウム2019、資料展示、試食会等計画（下記に計画案を記す）

通算12回 飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

飼料用米多収日本一・畜産物ブランド日本一表彰式、

～ 飼料用米普及のためのシンポジウム2019 ～

日 時 : 平成31年3月15日(金) 開場:10:30 開会:11:00

会 場 : 東京大学弥生キャンパス 弥生講堂(一条ホール、ロビー、会議室)

プログラム

11:00～12:00 **飼料用米普及のためのシンポジウム2019 第一部**

12:00～13:00

展示、試食、休憩 (会議室で試食会、ロビーで資料展示)

13:00～14:10 表彰式

平成30年度 飼料用米多収日本一表彰式

主催:一般社団法人日本飼料用米振興協会、農林水産省

後援:全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、協同組合日本飼料工業会

協賛:日本農業新聞

平成30年度 飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式

主催:一般社団法人日本養豚協会

後援:農林水産省、全国農業協同組合中央会、公益社団法人中央畜産会

14:10～14:30 休憩 舞台装置変更

14:30～16:30 **飼料用米普及のためのシンポジウム2019 第二部**

16:30～16:45 閉会挨拶

17:30～19:00 情報交流会(希望者 3,500円) 農学3号館 東大消費生協食堂

6. 会員拡大計画

年間通じて、新会員の拡大に努める。

以上について、議長は審議を進め、意見を募ったが特に意見はなく、審議を終了し、採決を行った。全員の賛成で議了した。

第IV議案 2018年度予算案の提案および審議

(1) 会費収入計画

会員会費	事業体	1,100,000円
入会金	事業体	50,000円
協賛金		300,000円
分担金		300,000円(日本一事業、多収)
分担金		200,000円(日本一事業、ブランド)
概算収入見込み		1,960,000円

(2) 特別会計 飼料用米終了日本一表彰事業

繰越金	1,648,030 円
後援金	2,800,000 円
概算総予算枠	4,448,030 円

(1) 本体会計 飼料用米振興協会 (決算見直しおよび新年度予算計画案)

科 目	2017年度実績		2018年度計画	
	計画	実績	計画	実績
I 経常収益				
1 会費収入	1,180,000	1,040,000	1,100,000	
2 入会金収入	100,000	50,000	50,000	
3 協賛金	200,000	300,000	300,000	
4 研究受託費	240,000	241,900	0	
5 振替金	300,000	300,000	300,000	
6 日本養豚協会より分担金		222,865	200,000	
7 雑収入 (金利)	0	4	0	
経常収益計				
	2,020,000	2,154,789	1,950,000	

II 経常費用				
交通費	150,000	161,842	200,000	
通信費 (インターネット等)	60,000	31,080	31,080	
会議費 (食糧会館等)	100,000	58,320	60,000	
東京大学弥生講堂		177,900	180,000	
資料 (書籍) 購入費	40,000	33,732	35,000	
資料作成費 (印刷費)	220,000	248,650	250,000	
事務用品費	120,000	450,025	150,000	
講師謝金	200,000	84,210	100,000	
租税公課 (都区税)	120,000	70,000	70,000	
外注費	300,000	458,664	150,000	
東京農業大学栽培研究費		120,960	0	
会計事務所監査費用 (吉野会計事務所)	80,432	80,000	80,000	
事務費 (振込費用)	756	4,158	5,000	
広告宣伝費 (日本農業新聞)		64,800	0	
予備費	30,000	0	30,000	
経常費用計	1,421,188	2,044,341	1491080	
当期経常増減額	598,812	110,448	458,920	
III 経常外収益	0			
経常外収益計	0			
IV 経常外費用				
経常外費用計	0			
税引前当期正味財産増減額	0			
当期法人税、住民税及び事業税	0			
当期正味財産増減額	598,812	110,448	458,920	
前期繰越正味財産額	20,193	20,193	130,641	
次期繰越正味財産額	619,005	130,641	589,561	

以上について、議長は審議を進め、意見を募ったが特に意見はなく、審議を終了し、採決を行った。全員の賛成で議了した。

第V議案 定款に基づき、役員の変更を行った。

現在役員の変更と新規に昭和産業株式会社飼料畜産部の阿部健太郎部長の推薦があり、議長がその可否を問うたが、異論なく出席者全員の賛成で選出した。

理事 海老澤恵子 中野区消団連 (副会長)
理事 加藤好一 生活クラブ生協事業連合会 (会長)
理事 若狭良治 NPO 未来舎 (副理事長)
理事 木村友二郎 木徳神糧榊 顧問
理事 信岡 誠治 有識者 前東京農業大学農学部 教授
理事 遠藤雄士 全国農業協同組合連合会 課長
理事 谷井勇二 有識者 元全農職員
理事 阿部健太郎 (昭和産業株式会社飼料畜産部長)
監事 岩野千草 中野区消団連
全員、出席し、役員就任を承諾した。

総会を一時休憩し、全選出役員で第1回理事会を開催した。

理事会を終了し、総会を再開した。
海老澤議長が理事会の結果について報告した。
三役を互選により選出し、全員の承諾を受けた旨を報告し、参加者一同了承した。

理事長 海老澤 恵子 (重任)
副理事長 加藤 好一 (重任)
理事・事務局長 若狭 良治 (重任)
全員、出席し、就任を承諾した。

議長は以上で全ての議題が終了したことを宣し、議長を解任し、海老澤恵子理事長が挨拶を行い閉会した。

2018年6月1日
議事録を作成し、以下、理事、監事が捺印した。

理事長	海老澤 恵子	押印
副理事長	加藤 好一	
理事	木村 友二郎	
理事	阿部 健太郎	
理事	遠藤 雄士	
理事	信岡 誠治	
理事	谷井 勇二	
理事・事務局長	若狭 良治	
監事	岩野 千草	